

第9号様式(第14条関係)

座間市市民協働課

平成 24.2.-8 受付

第 号

座間市相互提案型協働事業実施報告書

平成24年 2月 8日

(宛先)座間市長

団体 住 所 座間市緑ヶ丘2-18-27

名 称 座間市写真連盟

代表者氏名 尾崎 忠夫



市 担 当 課 生涯学習課

所 属 長 梅田 稔



次のとおり報告します。

1 事業名	ざま再発見写真コンテスト
2 事業形態	<input type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成23年度選考 (平成23年度実施)
4 報告期間	平成23年10月1日 から 平成24年3月31日 まで
5 事業費	100,000円
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は別紙、事業詳細に御記入ください。	写真コンテスト・写真展の開催 具体的には実行委員会を組織していただき、写真の応募要項の作成、審査員の選定、用具の発注と、会場設営、表彰式事務などを行う。
5 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input checked="" type="checkbox"/> その他(アンケート集計表、来場者数等報告書)

座間市相互提案型協働事業詳細報告書

1. 事業の目的・目標の設定と達成度	
<p>目的(何のために)</p> <p>写真を通じて撮影者や展示来場者にも座間の素晴らしさを再発見していただき、自身が住んでいる座間へのより一層の愛着と郷土への自信を持ってもらう。 写真家・展示来場者双方の写真文化の向上につながるような写真展を行う。</p>	
<p>目標(何をどういう状態にするのか)</p> <p>写真家・展示来場者双方の写真文化の向上につなげる。 市内の写真愛好家の発掘と親交が深まり、市への写真文化が根付く。 芸術文化への興味・関心が広がる。</p>	
達成度	<p>団体 (90%)</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出品者、出品点数、来場者は例年になく多かった。 出品者数60名、作品点数420枚、来場者数555人 (昨年度 出品者数55人、作品点数302枚、来場者数523人) ・市内で「栗原フォトクラブ」という団体が1月から新たに結成し、活動していることがわかった。 ・出品者や来場者で談話をしている姿が見られ写真愛好者の交流の場となっていた。 <hr/> <p>市 (95%)</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は出品者数、出品点数、来場者数、どれを見ても昨年度を上まわった。 ・今年1月から市内で写真活動する団体が出来たことを知った。 ・今回小学生から応募があり、今後子どもからの作品応募に期待がある。 ・今回は作品募集の宣伝時間が例年より短かったため、周知が充分にできていなかった。

2. 事業内容及びスケジュール				
実施内容	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
実行委員会会議			10月4日	
募集広報掲載			11月1日号	
募集期間			11月1日～ 30日	
審査日			12月8日	
準備(写真台紙貼り作業)				1月16日
展示広報掲載				1月15日号
情報誌掲載				
展示準備(会場準備)				1月24日
展示期間				1月25日～ 29日
表彰式				1月29日
片付け				1月29日
3. 団体と市の役割分担				
(団体の役割) 展示に関してほぼ全てにおいて協力していただく。 (協賛会社への依頼、周知、展示準備、片付け等)				

(市の役割)

コンテストに関する部分と、事務処理、下準備。

(情報誌の掲載依頼、応募作品の受付、整理、審査員への依頼、受賞者への通知、備品購入等)

4. 事業を実施しての成果・効果

(団体)

- ・出品者数、出品点数、来場者数が例年以上に多かった。
- ・「栗原フォトクラブ」という団体が1月から結成し、活動していることがわかった。
- ・出品者や来場者で談話をしている姿が見られ写真愛好者の交流の場となっていた。

(市)

- ・出品者数、出品点数、来場者数、どれを見ても昨年度を上まわった。
- ・また、今年 1 月から市内で写真活動する団体が出来たことを知った。
- ・今回小学生からの応募があり、今後子どもからの作品応募に期待がある。

5. 事業を実施しての反省点(課題)及び対応策

団 体

・反省点(課題)

- ・コンテストや展示会の日程を知らなかった、という人がいたので、次回は早めに宣伝したい。

・対応策

- ・宣伝方法を見直し、早めに広報する。

市

- ・反省点(課題)
- ・今回は作品募集の宣伝時間が例年より短かったため、周知が充分にできていなかった。

・対応策

- ・次回は早めに実行委員会を開催して、宣伝の時間を多く設け、市民だけでなく市外の方にも広く周知していきたい。

6. 今後の課題(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取組について)

(団体)

- ・展示の仕方にジャンルを設けるなど、もう少し見やすくする工夫をする。
- ・周知・宣伝にもっと時間をとる必要がある。

(市)

- ・第7回を終え、アンケートからもうかがえるように市民に少しずつ浸透してきたコンテストとなってきたので、出来る限り継続していくことと、コンテスト方法や展示方法に工夫をするなどして、飽きない展示にしていきたい。

7. 意見・感想（協働事業を振り返ってみて、気づいたことや協働事業全般に関する事などなんでも結構です。自由に御記入ください。）

（ 団 体 ）

この事業に携わるのは7回目ではあったが、今回は特に「協働事業」という意識をもって、新たな気持ちで行った。

（ 市 ）

・団体には協賛の依頼、専門知識、経験といった職員では出来ない部分を補っていただいた。団体も今回は「協働事業」という意識をもって事業を行っていた。